

【提案】 SVCIP

V: 判断 下記業務が“急務”

◆古文書の救済（最適な仕事）:

各地域において廃棄されて続けている古文書を再生させる仕事。今まで存在している多くの古文書が、民家の蔵・地域資料館・公民館・図書館・元小学校等の片隅で死蔵、記録内容を調査される事も無く「ゴミ」として廃棄され続けている事も確認される。まずは古文書所在情報を収集して補修とデジカメ撮影を実行が急がれる。

◆10年後では不可能:

「古文書」の調査・補修 ができる人材、それを養成できる環境も激減 してゆくため優先すべき業務。

◆高齢者や主婦・身障者でもできる仕事の発注が急務:

日本国民の長所である細かな手作業を活かせる仕事。勤勉で細かい手作業が得意な国民性を発揮してくれる人材の養成を急ぐ。プロによる指導により、アマチュアをセミプロ、セミプロをプロとして教育する仕組みの作成と実行を急ぐ。

◆技能を教える側:

ゆくゆくは今回プロによりしっかりと指導をうけた「高齢者・主婦・身障者」たちが、セミプロの技術者・熟練者となり、多くの自分達の分身を、教える側・成長させる側の立場となる事ができ、段階的に指導できる基礎体制を火急つくる。

◆コミュニティの場が必要:

冬暖かく夏涼しい、かつ広々として居心地の良い「新しいコミュニケーションの場 兼 仕事場」が、急ぎ必要。

◆仕事の間が必要:

高齢者・女性・身障者において、働ける能力があるにも関わらず「働かない・働こうとしない」理由がある。その理由をより明らかにし、その対策が急がれる。

◆仕事内容の適正:

各個人全員に各仕事の作業能力の立候補と適正検査を行う。適性能力の見分け判断が必要。

◆仕事を出す側・仕事を受ける側: どういう仕組み・工夫をすれば世界を相手に職人作業の受注ができる。

双方が合致する方法 を考えて実行する。

◆「古文書の救助」が基礎:

「古文書の存在の意味」、大切さを各地方の有識者が再確認し、その地域に未だ存在する古文書、それを救済する事が「地域お興しの基礎」となる。

国家主導による各地方における「地域お興しの基礎」作り。 都内一部においてでも、計画と試みの実行が、急がれる。